

流山市役所でのインターンシップ体験レポート

実習の内容

- ・転入セットの制作 ・住民票、印鑑登録証明書、戸籍謄・抄本の発行
- ・住基カードの入力、発行 ・異動届の入力、確認 ・印鑑登録 ・出張所便の振り分け
- ・手紙へのはんこ押し

実習で学んだこと

一番新鮮だったのは、今まで役所というものに対して持っていたイメージと、実際に働いてみた時の役所のイメージがまったくもって正反対だったことです。インターンシップ前は、役所と言うと堅苦しくて、地味なイメージでしたが、実際に職務についてみると、職員の方々は皆さん明るく気さくな方が多く、とてもリラックスしてインターンシップに参加することができました。他にも、自分は入所した時に配属された課に勤務し続けるものだと思っていたのですが、実際は数年に一度のペースで転課を行われるそうです。お話を伺った男性職員の方は、市民課から、現場に転課になり、再び市民課に戻ってきたという職員の方もいらっしゃいました。

また、職務に関しても皆さんとても熱心で、和気あいあいな雰囲気は残したまま、仕事には本気で取り組み、仕事を淡々と処理していました。そこから私は、公務員の責務や心構えなども学ばせていただくことができました。

それに市民課の窓口にはいろいろな方がたくさん来ていましたが、全ての人に対して平等に優しく接している姿にとっても感動し、窓口業務の大切さを学ぶこともできました。

実習を終えて

今回のインターンシップは、参加する前はとても緊張し、何度も持ち物を確認したり、服装を確認したりと慌ただしくしていたのですが、初日にミーティングに参加した時に、人事課の方が同年代くらいの女性の方で、いろいろ話を聞いたりすることができ、そこから緊張がほぐれていきました。

また市民課に配属していただいた時も、私の担当をしてくださった方がとても明るく、気軽に話しかけてきてくれて、リラックスして職務に就くことができました。

市民課には同年代の方も多く、いろいろな方とお話をしたりすることができました。

そこで、公務員試験に関することや、職務の内容などの話から、趣味の話までいろいろとお話することができました。

また、インターンシップで本庁へ出勤する際、流山おおたかの森駅でバスを待っていたのですが、自分の座っている椅子のとなりへおばあさんが座り、自分に話しかけてきたことがありました。その際に、自分はインターンシップで流山市役所へこれから行くと言うと、おばあさんが、市役所の方々は皆さん丁寧に接してくれていい人たちばかりだ、とおっしゃられていて、自分も市民の方に信頼していただけるような職員の方々みたいになりたいと強く思いました。

2014年8月

社会学部経営社会学科3年 齊藤 優紀